

メディアとわたしたちのかかわりについて考えよう
めあて

序論と結論から、筆者の説明の技と筆者の主張を読み取ろう。

序論

グラフから読み取ったこと

教科書 103 ページの
グラフを提示

- ・テレビを見る時間が一番長い。
- ・ラジオや新聞は少ない。
- ・役に立つメディアの中ではテレビが一番多い。

筆者の説明の技①

グラフの使用

効果

色や数字で表されているので、分かりやすく説得力が増す。

結論

筆者の主張

わたしたちは、伝えられる映像の外にある部分をわすれないようにしながら、テレビと付き合う必要がある。(四十九字)

筆者の説明の技②

問いかけ

(〜ではないでしょうか。)

効果

読者自身が考えるようになる。

【3 / 9 時間目 指導略案】 使用するワークシート「テレビとの付き合い方」③
本時のねらい

- ①筆者の意見の述べ方の工夫(説明の技)を読み取らせる。
- ②文章構成表を基に、筆者の主張を読み取らせる。

1 学習計画表を見て、本時の学習内容とめあてを確認する。

- 本時は、序論部分を読み取った後、本論部分の構成について考えていくことを確認させる。

2 序論部分を読み、グラフの内容について話し合う。

- グラフから読み取ったことを基に、アンケートの結果も絡ませながら、テレビが最も身近なメディアであることや、その影響力などについても意見を述べさせる。

※ 筆者の主張部分「テレビと付き合っていく必要がある」という表現から、「どうして筆者は、このように言っているのか」と投げ掛け、序論部分にそのきっかけがあることを押さえながら序論部分の読み取りに入ります。

3 筆者の意見の述べ方の工夫(説明の技)について考える。

- 筆者の意見の述べ方の工夫(説明の技)として、グラフを用いた意図や、どのような効果があるのかについて考えさせ、ワークシートに記入させる。

評価 ①筆者の意見の述べ方の工夫(説明の技)として、グラフを用いていることを捉え、その効果を読み取っている。(読ウ)

4 文章構成表を基に、筆者の主張をつかむ。

- ⑦段落の二文を比べて考えさせる。
- 筆者の主張を五〇字以内でまとめさせる。

※ 後の文中にある「白い部分」という表現に疑問をもつ児童が出てくることも予想されるので、前の文の「映像の外にある部分」と置き換えて考えさせることにより、本論の学習も意識させます。

評価 ②筆者の主張を読み取っている。(読ウ)

5 筆者の意見の述べ方の工夫(説明の技)について考える。

- 筆者の意見の述べ方の工夫(説明の技)として、読者への問い掛けの形で終わっていることについても考えさせ、このことからメディアとの関わり方を考えていくことが必要であることを押さえる。

6 学習を振り返り、次時の学習に見通しをもつ。

- 次時は、図の「黒い部分」と「白い部分」に当てはまる言葉について考えていくことを伝える。